

令和元年度「地域と共にある学校づくり」リーダー研修会 実施報告

《日時》 令和2年1月30日(木) 13:30~16:30

《会場》 天理市文化センター 文化ホール

《参加者》 教職員(公立幼稚園、認定こども園、小・中学校、県立学校)、地域コーディネーター、社会教育関係者、市町村教育委員会事務局関係職員 等 計 230名

《内容》

◆第1部 表彰式

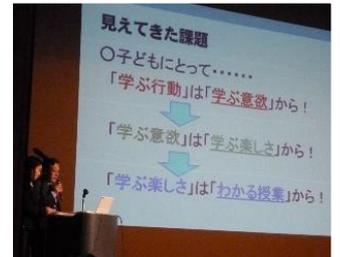
優れた「地域と共にある学校づくり」奈良県教育委員会 教育長賞 表彰状授与
(受賞校) 天理市立櫛本小学校・御所市立大正中学校・県立西の京高等学校・県立二階堂高等学校



◆第2部 研修会

○ 受賞校による実践報告

西の京高等学校 [地域フォーラム ~高校生からの提言~] 報告者 校長 藤本教子
櫛本小学校 [櫛小プロジェクト協議会] 報告者 主査 井田康晴
大正中学校 [大正「学び力」育成委員会] 報告者 校長 向本博俊、教諭 石本智子
二階堂高等学校 [地域社会とつながったキャリア教育] 報告者 教諭 森田宏彰
3年生生徒(3名)



○ 講評 「CS(コミュニティ・スクール)を形骸化させないために」

奈良県CSアドバイザー・文部科学省CSマイスター 高木 和久



・CSとは、学校だけでは実現が難しいことを、地域の力を借りて行う仕組みである。

・学校運営協議会では、リアルな子どもの情報共有をするために地域・学校・家庭が共有できる具体的な目標を設定することが望ましい。子どもたちにも学校がCSであるということを説明すると、子ども自身がこれで何をするのか、どんなことをすればいいのかわかってくる。

・学校運営協議会の設置が本格化していくなかで、留意してほしいことは、

「困ったときには互いに相談をしよう。」「子どもの声を聞きながら、学校運営協議会を動かそう。」、この2つである。

・「あの人がいるからできている」という動きを作らない。地域人材による「事務局」を作り、管理職や教職員の異動と事務局の入れ替わり時期をずらす工夫をしておくことで運営が継続していく。

・地域には素晴らしい感性をもっている人がいる。その人材を探すためには地域のネットワークが大切である。

・学校にも地域にも様々な子どもたちがいる。個の視点に立った学校運営協議会であるべきで、子どもたち自身を高めたいと願う大人が熟議を重ねて実践につなげていってほしい。それが学力向上にもつながっていく。

・学校運営協議会が設置されて3年~5年が過ぎた学校では、以上のことをもう一度見直して進めてほしい。



《参加者の感想》

- ・子どもたちに自尊感情や自己有用感を育むためには、地域との交流が大切と改めて感じました。
- ・学校が工夫をしながら地域の人々と関わり、学校・地域が一体となって盛り上げている様子がよくわかりました。
- ・小・中学校の取組とは違い、高校生が自ら地域に出て連携を進めている姿に頼もしさを感じました。地域振興を十分に担えると思いました。
- ・取組もさることながら、一人ずつがマイクをもち「自分が足りないと思っていたことが身についた」等、思いを伝えられていた生徒の皆さんの発表は素晴らしかったです。主体的な取組があってこそ子どもたちの成長があるのだと感動しました。
- ・高木先生のまとめがわかりやすく、それぞれの報告から、子どもたちにこんな力をつけたい、こんな子どもに育てたいという願いや目標が、地域との共有のもとに進められていることがよく理解できました。

